

第11回岐阜文学散歩タウンウォッチング

芭蕉と支考～俳句の歴史の骨格をつくった二人～

講師：大野鶴士先生

平成20年6月21日 於：岐阜市歴史博物館及び岐阜公園周辺



大野先生のプロフィール
 ○連句・俳句インストラクター
 ○岐阜県連句協会理事長
 ○獅子門第41世道統
 ○岐阜県芸術文化奨励賞受賞
 ○岐阜県芸術文化顕彰受賞
 ○著書
 「連句…そこが知りたい!…」ほか

第11回は岐阜を2度訪れた「芭蕉」と、その流れを汲み、岐阜を始め全国的に連句、俳句の文化を根付かせた「美濃派」の開祖である「支考」について、獅子門第41世道統である大野鶴士先生からお話をいただきました。

今回のテーマは第1回の岐阜文学散歩のアンコール企画ということで、第1回の時には「岐阜を訪れた芭蕉さん」に焦点をあて、岐阜で詠まれた句などを中心にお話をいただきましたが、今回はそれに加えて芭蕉さん以前から現代までの連句、俳句の流れや、当時の「岐阜」が連句の文化を全国に発信する先進地であったことなども紹介されました。



また、講義の後のタウンウォッチングでは、芭蕉さんが宿泊された部屋が現存する「妙照寺」や「十八楼」があった川原町等を巡ると共に、岐阜公園周辺に数多くある句碑にも注目し、細かくご紹介していただきました。

参加者の皆さんからは、「難しい内容だったけれど先生のお話はとてもわかりやすく勉強になりました」、「近くに住んでいてもなかなか訪れられない場所を説明つきでまわられてよかったです。」などの感想が寄せられ、有意義なひとときを送っていただけたようです。



タウンウォッチング

岐阜市歴史博物館～妙照寺～正法寺～川原町～賀嶋邸～
 ポケットパーク名水～御手洗池～三重の塔付近～歴史博物館前



賀嶋邸はこの辺りにあったのではないかとわれています。



川原町に入ります。



正法寺（岐阜大仏）を通ります。



妙照寺：芭蕉が滞在したお寺
 やとりせむあかさの杖になる日まで
 松尾芭蕉



さあ、出発です。



ポケットパーク「名水」
 おもしろうてやがて悲しき鶴舟かな
 松尾芭蕉
 ここには、北原白秋や川端康成などの文学碑もあります。



御手洗池
 正史にはさありとも鷹の涙落つ
 塩谷鶴平



三重の塔付近
 城跡や古井の清水先とはむ
 松尾芭蕉



噴水前での集合写真